



Green Stream

わたしの mug cup

今回の写メールのテーマは「ウチのペット」、イヌ・ネコ・トリ・昆虫・ヘビ・熱帯魚など。あなたの家で飼っている自慢のペットの写真を Green Streamまで写メールで送ってください。採用された方にはささやかなプレゼントを差し上げます。プレゼントについてはメールでお知らせします。松ヨビ駅前校舎窓口に取りに来てください。どしどし送ってね。〆切は5月13日。Green Stream5枚(異なる月)を集めてください。特製グッズをプレゼント中です。駅前校舎にカード5枚を持ってお越しください。送り先アドレスは g.stream@ratsuyobi.ac.jp

2006 April-2006 May
Green Stream VOL.8
発行：松本大学予備校
編集：G・Stream



vol.8

mug cupにつながる世界

お気に入りのマグカップでコーヒーを飲む。勉強に疲れた時の、ほっと一息。今回はそのコーヒーの話。コーヒーの消費量(2004年)は全世界で4119000t。アメリカは1247000t、ドイツは610000t、日本は427000t(でももちろん100%輸入。一人あたりの年間消費量はアメリカ4.2kg、ドイツ7.3kg、日本3.3kg。コーヒー一杯10gで換算すると、赤ちゃんから老人まで一人あたり年間33杯飲んでいる！近所のスタバで270円のコーヒーを飲む(豆の価格はこの内の5-7%)。家で通販のレギュラーコーヒー19円！を飲む。なんでこんなに安いのか？優雅なコーヒータイムとは対照的に、発展途

国の2500万人の小規模コーヒー農家ではコーヒー豆の歴史的な安価に苦悶している。1999年から2004年までの5年間でコーヒーの価格は50%も下落。理由の一つは焙煎業者(ネスレ・P&Gなど大手5社)が仲介業者から、その仲介業者は生産者から、格安でコーヒーを買いたたき、焙煎してから高値で売るというシステムだから。これがコーヒータイムの安さのカラクリ。生産者には苦いだけのコーヒーで私の優雅なコーヒータイムは成り立ってる・・・。

「フェアトレード」って知ってる？「フェア」=公正な「トレード」=貿易。南米の生産者と北米の消費者が出会い、生産者の自立を支援し、経済格差の縮小が目的。さらに人と自然が共生する環境を整えることも目指す。利益のみを追求する多国籍企業や仲介業者を通さずに、生産者と消費者がつながることで互いの顔も見えてくる。南米のブラジルのコーヒー農園ジョアキンおじさんは、日本の消費者のワタシの要望を聞いて、有機栽培のコーヒーをつくり、コーヒーを飲む北米のワタシはそれに見合う代金を支払う。価格は少し高いけど、ジョアキンさんがどうすれば今後も持続可能な農業ができるのかを考え、想像を広げ、コーヒーの香りに包まれる。モノを通じて世界とつながっていることを感じながら、メニューからフェアトレードコーヒーを選んで飲む。君のマグカップの向こう側には何が見える？

松ヨビが発行する
Green Stream
だから単なる「トリビア」じゃない
受験にお役立ちの
ちょっと知っているとウレシイ情報
そのままでは使えない
でも「考えるネタ」にはピッタリ
そんなお役立ちモノです

ちょっと知っているとイイね
お役立ち情報